

社会福祉法人 清明会

介護老人福祉施設 でいご園

運 営 規 程

介護老人福祉施設でいご園運営規程
(ユニット型介護福祉施設)

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この規程は、社会福祉法人清明会が設置運営するユニット型指定介護老人福祉施設でいご園（以下「施設」という。）の運営及び利用について必要な事項を定め施設の円滑な運営を図ることを目的とする。

2 この規程は、社会福祉法人清明会が設置運営するユニット型特別養護老人ホームでいご園の運営及び利用について準用するものとする。この場合、この規程における「管理者」は「施設長」に、「従業者」は「職員」に、それぞれ読み替えるものとする。

(基本方針)

第2条 施設は、介護保険法、老人福祉法及び関係法令に基づき、入居者一人一人の意思及び人格を尊重し、入居者の居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるよう介護サービスの提供に万全を期するものとする。

(定員)

第3条 施設の定員は105名とする。

2 ユニット数及びユニットごとの入居定員は次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) ユニット数 11ユニット
- (2) ユニットごとの入居定員 10名（最大）
- (3) 短期入居定員は4名とする。

第2章 従業者及び職務分掌

(従業者の区分及び定数)

第4条 施設に次の従業者を置く。

- (1) 管理者 1名以上
- (2) 事務員 4名以上
- (3) 生活相談員 2名以上
- (4) 介護支援専門員 2名以上
- (5) 介護職員 40名以上

- (6) 看護職員 5 名以上
- (7) 機能訓練指導員 2 名以上
- (8) 医師 2 名（内嘱託 1 名）
- (9) 管理栄養士 1 名以上
- (10) 調理員等 5 名以上

2 前項において「計画担当介護支援専門員」とは、第 15 条に規定する施設サービス計画に関する業務を担当する介護支援専門員を指すものとする。

3 第 1 項に定めるもののほか、必要がある場合はその他の従業者を置くことが出来る。

4 第 1 項に定めるもののほか、委託等で必要のない場合は上記従業者を置かないことができる。

(職務)

第 5 条 従業者の職務分掌は次のとおりとする。

(1) 管理者

施設の従業者の管理、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行う。管理者に事故あるときはあらかじめ理事長が定めた従業者が管理者の職務を代行する。

(2) 事務員

施設の庶務及び会計事務に従事する。

(3) 生活相談員

入居者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、入居者又は身元引受人（家族等）の相談に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行う。

(4) 介護支援専門員

入居者の有する能力、その置かれている環境等の評価を通じて、入居者が自立した日常生活を営む上での課題を把握し、施設サービス計画の原案を作成するとともに、必要に応じて変更を行う。

(5) 介護職員

入居者の日常生活の介護、相談及び援助業務に従事する。

(6) 看護職員

医師の診療補助、及び医師の指示を受けて入居者の看護、施設の保健衛生業務に従事する。

(7) 機能訓練指導員

日常生活を営むのに必要な機能を改善し、又はその減退を防止するための訓練を行う。

(8) 医師

入居者の診療、及び施設の保健衛生の管理指導に従事する。

(9) 栄養士

入居者に提供する食事の管理、入居者の栄養指導に従事する。

(10) 調理員

入居者に提供する食事の調理業務に従事する。

- 2 施設長は、職員の管理、業務の実施状況の把握、その他の管理を一元的に行わなければならない。又、職員に本規程を遵守させるための必要な指揮命令を行うものとする。

(事務分掌)

第6条 従業者ごとの事務分掌及び日常業務の分担については管理者が別に定め、入居者に対する適切な施設サービスの提供を確保するものとする。

(会議)

第7条 施設の円滑な運営を図るため次の会議を設置する。

- (1) 職員会議
- (2) 各代表者会議
- (3) 施設サービス計画に関する会議
- (4) 入居者に提供する食事に関する会議
- (5) その他管理者が必要と認める会議

- 2 会議の運営に必要な事項は管理者が別に定める。

第3章 入居及び退居

(入居)

第8条 入居申込者の施設への入居は、入居申込者と施設の契約により行うものとする。

- 2 管理者は、入居定員に達している場合又は入居申込者に対し、自ら適切な施設サービスを提供することが困難である等正当な理由がある場合を除き、入居契約の締結を拒むことはできない。
- 3 管理者は、あらかじめ入居申込者又は身元引受人（家族等）に対し、この運営規程の概要、従業者の勤務体制、事故発生時の対応、苦情処理の体制その他の入居申込者の選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して、懇切丁寧に説明を行い、施設サービスの開始について入居者の同意を得るものとする。
- 4 管理者又は介護支援専門員は、入居申込者の提示する被保険者証によって被保険者資格、要介護認定の有無及び要介護認定の有効期限を確かめるものとする。要介護認定を受けていない入居申込者に対しては要介護認定の申請の有無を確認し、申請が行われていない場合は、入居申込者の意思を踏まえ、速やかに当該申請が行われるよう必要な援助を行うものとする。
- 5 管理者又は介護支援専門員は、要介護認定の更新申請が遅くとも前項の有効期間満了

日の３０日前には行われるよう必要な援助を行うものとする。

（面接及び調査）

第９条 管理者、生活相談員、介護支援専門員及び医師は、新たに入居した入居者に対して心身の状況、特性、経歴、学歴、技能、家庭環境、信仰、趣味、嗜好、その他心身に関する調査、検診を行い、その結果を記録保存しておくものとする。

（入居時の書類等の引継）

第１０条 入居者又は身元引受人（家族等）は、入居時の契約に基づいて、入居者の次の書類等を用意し管理者に引き継ぐことができる。

- （１） 年金証書
- （２） 健康保険証
- （３） 介護保険制度における被保険者証
- （４） 預貯金通帳
- （５） 印鑑
- （６） 所持する金品
- （７） その他必要と認める書類等

２ 施設は、前項で定める書類及び金品を引き継いだ入居者について、第１２条に規定する事由により契約が終了した場合には、身元引受人（家族等）と協力し、民法等関係法令の規定及び公序良俗に反しない手続きにより、引き継いだ書類及び金品の処分を行うものとする。

３ 第１項及び第２項に規定する事項の具体的な取扱いについては、管理者が別に定める。

（貴重品等の保管）

第１１条 管理者は、前条第１項に規定する書類及び所持金品を受領した時は、管理者が管理責任者になるとともに取扱職員を定めるものとする。

２ 所持金品の受払いにあつては、取扱職員は管理者の承認を得て行うものとする。また、受払いの状況は、受払帳簿（預貯金、現金にあつては金銭出納簿）に正確に記録するとともに、関係帳票は確実に整理保管しておかなければならない。

３ 管理者は、受払帳簿又は金銭出納簿と保管金品を定期的に照合確認（検証）しなければならない。

４ 第１項から第３項までに規定する事項の具体的な取扱いについては管理者が別に定める。

（退居）

第１２条 管理者は、入居者に次の事由が生じた場合は、身元引受人（家族等）に対し、７日間の期間を定め、その理由を付して契約の解除について予告するものとする。

- (1) 入居者が無断で退所し、7日間経過しても帰所の見込みがないとき。
- (2) 入居者が入院し、明らかに3ヶ月以上入院する事が見込まれるとき。
- (3) 入居者の行動が施設の目的及び運営の方針に著しく反するとき。
- (4) 入居者が負担すべき費用を3ヶ月間滞納したとき。

2 入居者に次の事由が生じた場合は、契約は終了するものとする。

- (1) 要介護認定の更新において、自立又は要支援と認定されたとき。
- (2) 入居者が死亡したとき。
- (3) 入居者が契約の解除を通告し、7日間が経過したとき。
- (4) 管理者が前項に規定する契約解除の予告をし、予告期間が経過したとき。
- (5) 入居者が入院した後、おおむね3ヶ月を経過しても退院できないとき。
- (6) 他の介護保険施設への入所が決まり、その受入ができる状態になったとき。

3 管理者は、入居者の退居に際しては保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるとともに、円滑な退居の為に必要な援助をするものとする。

(入居者の入院中の取扱)

第13条 管理者は入居者について、入院する必要がある場合であって、入院後おおむね3ヶ月以内に退院することが明らかに見込まれるときは、その者及び身元引受人(家族等)の希望等を勘案し、必要に応じて適切な便宜を供与するとともに、やむを得ない事情がある場合を除き、退院後再び円滑に入居することができるようにするものとする。

第4章 入居者に提供する施設サービスの内容及び費用負担

(基本原則)

第14条 施設サービスは、入居者の有する能力に応じて、自らの生活様式及び生活習慣に沿って自律的な日常生活を営むことができるようにするため、第15条に規定する施設サービス計画に基づき、入居者の日常生活上の活動について必要な援助を行うことにより、入居者の日常生活を支援するものとして行うものとする。

2 施設サービスは、各ユニットにおいて入居者がそれぞれの役割を持って生活を営むことができるよう配慮して行うものとする。

3 施設サービスは、入居者のプライバシーの確保に配慮して行うものとする。

4 施設サービスは、入居者の自立した生活を支援することを基本として、入居者の要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、その者の心身の状況等を常に把握しながら、適切に行うものとする。

5 従業者は、施設サービスの提供に当たって、入居者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明するものとする。

- 6 入居者の被保険者証に介護保険法第87条第2項に規定する認定審査会意見が記載されているときは、当概意見に配慮して施設サービスを提供するものとする。
- 7 施設サービスの提供に当たっては、入居者の人権に十分配慮し、心身の虐待行為の禁止は勿論のこと、入居者の生命又は身体を保護する為緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等入居者の行動を制限する行為を行ってはならない。また、入居者の人権、社会的身分、門地、宗教、思想、信条等によって差別的又は優先的取扱を行ってはならない。

(施設サービス計画)

- 第15条 介護支援専門員は、入居者の有する能力、その置かれている環境等の評価を通じて自立した日常生活を営むうえで入居者が解決すべき課題を把握し、他の従業者と協議の上、施設サービスの目標及び達成時期、施設サービスの内容、施設サービスを提供する上で留意すべき事項等を記載した施設サービス計画の原案を作成するものとする。
- 2 介護支援専門員は、入居者について、その心身の状況、その置かれている環境、その者及び家族の希望等を勘案し、その同意を得てその者の処遇に関する計画を作成しなければならない。
 - 3 介護支援専門員は、施設サービス計画の作成後においても、施設サービス計画の実施状況及び入居者の解決すべき課題の把握を行い、必要に応じて施設サービス計画の変更を行うものとする。
 - 4 介護支援専門員は、第1項に規定する施設サービス計画の原案及び第3項に規定する
 - 5 変更案について入居者に対して説明し、同意を得るものとする。

(介護)

- 第16条 介護は、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援するよう、入居者の心身の状況等に応じ、次の各号に掲げる事項を適切な技術をもって行うものとする。
- (1) 施設は、入居者の日常生活における家事を、入居者が、その心身の状況等に応じて、それぞれ役割を持って行うよう適切に支援する。
 - (2) 施設は、一週間に一回以上、適切な方法により利用者を入浴させ、また清拭をさせる。
 - (3) 施設は、利用者の心身の状況に応じ、適切な方法により排泄の自立について必要な援助を行う。
 - (4) 施設は、おむつを使用せざるを得ない利用者については、おむつを適切に取り替える。
 - (5) 施設は、前各項のものの他、利用者に対し、離床・着替え・整容等の介護を適切に行う。
 - (6) 施設は、褥瘡が発生しないような適切な介護を行うとともに、その発生を予防す

るための体制を整備する。

(7) 施設は、常時1人以上の常勤の介護職員を介護に従事させることとする。

(8) 施設は、利用者に対し、その負担により、当該施設の職員以外の者による介護を受けさせない。

(相談及び援助)

第17条 生活相談員は、常に入居者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、入居者又は身元引受人(家族等)の相談に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行うものとする。

(社会生活上の便宜の供与)

第18条 施設は入居者の嗜好に応じた趣味、教養又は娯楽に係る活動の機会を提供するとともに、入居者が自律的に行うこれらの活動を支援するものとする。

2 施設は入居者が日常生活を営むのに必要な行政機関等に対する手続きについて、その者又は身元引受人(家族等)において行うことが困難である場合は、その者の同意を得て、代わって行うものとする。

3 施設は入居者の身元引受人(家族等)との連携を図るとともに、入居者とその身元引受人(家族等)との交流等の機会を確保するよう努めるものとする。

4 施設は入居者の外出の機会を確保するよう努めるものとする。

(食事の提供)

第19条 食事の提供に当たっては、食品の種類及び調理方法について常に工夫し、栄養並びに入居者の心身の状況及び嗜好を考慮した献立により、入居者の生活習慣を尊重した適切な時間に実施するものとする。

2 管理者は、入居者の心身の状況に応じて、適切な方法により、食事の自立について必要な支援を行うとともに、入居者がその心身の状況に応じてできる限り自立して食事を摂ることができるよう必要な時間を確保するものとする。

3 予定献立は10日単位で作成し共同生活室に提示する。

4 疾病等を有する者には、医師の指示によりその症状に適した献立及び調理により食事を提供する。

5 食事の提供は、入居者が相互に社会的関係を築くことができるよう、その意思を尊重しつつ、入居者が共同生活室で食事が摂れるよう支援し、共同生活室で食事を摂ることができない入居者にあっては、居室に配膳し必要な食事補助を行うものとする。

6 検食は原則として食事の前か遅くとも同時に実施するものとし、実施に関して必要な事項は管理者が別に定める。

7 調理業務に従事する職員にあっては、特に身の清潔に留意するとともに月1回以上

の検便を受けなければならない。

8 調理室、食品貯蔵庫及び調理員専用便所等は関係者以外の立ち入りを規制し、常に清潔にしておかなければならない。

(機能訓練)

第20条 機能訓練指導員は、入居者に対し、施設サービス計画に基づいてその心身の状況等に応じて、日常生活を営むのに必要な機能を回復し、又はその減退を防止するための訓練を行う。

(健康管理)

第21条 管理者は、常に入居者の健康の状況に注意するとともに、1年に1回以上の定期健康診断を実施し、その記録を個人別に記録しておくものとする。

2 医務室には、常時必要な医薬品及び診療用器材器具を備え付ける。

3 入居者に入院の必要な事態が生じた場合には、速やかに別に定める協力病院等に引き継ぐものとする。

(勤務体制の確保)

第22条 施設は、入居者に対し適切な処遇を行うことができるよう職員の勤務の体制を定めておかなければならない。

(1) 施設は、当該施設の職員によって処遇を行わなければならない。ただし利用者の処遇に影響を及ぼさない業務についてはこの限りではない。

(2) 施設は、職員に対し、その資質向上のための研修の機会を確保する。また、施設は、研修の受講を希望する職員が研修を受講しやすい勤務環境を整えるよう努めなければならない。

(3) 昼間については、各ユニットに常時1人以上の介護職員又は看護職員を配置する。

(4) 夜間及び深夜については、2ユニットごとに1人以上の介護職員及び看護職員を夜間及び深夜の勤務に従事する職員として配置する。

(5) 各ユニットに常勤のユニットリーダーを配置する。

(定員の遵守)

第23条 施設は、入所定員及び居室の定員を超えて利用させてはならない。ただし、災害その他やむを得ない事情がある場合は、この限りでない。

(施設サービスの利用料及び費用等)

第24条 第16条から第21条に規定する施設サービスの提供は、介護保険法、老人福祉法及び関係法令に規定する利用料負担により実施する。

- 2 前項の利用料負担による施設サービスのほか、次の各号に掲げる事項については、入居者から費用の支払いを受けることができる。
- (1) 食事の提供に要する費用
 - (2) 居住に要する費用
 - (3) 厚生労働大臣の定める基準に基づき入居者が選定する特別な居室の提供を行ったことに伴い必要となる費用
 - (4) 厚生労働大臣の定める基準に基づき入居者が選定する特別な食事の提供に要する費用
 - (5) 理美容代
 - (6) 前各号のほか日常生活において通常必要となるものであって、入居者に負担させることが適当と認められる便宜の提供
- 3 前項(6)に規定する便宜の具体的な内容及び前項各号に掲げる事項の具体的な費用については、管理者が別に定める。
- 4 第2項各号に規定する施設サービスの提供にあたっては、入居者又は身元引受人(家族等)に対し、その内容及び費用を記した文書を交付して説明を行い、入居者の同意を得るものとする。ただし、同項(1)から(4)までに掲げる費用に係る同意については、文書によるものとする。
- 5 第2項及び第3項に規定する施設サービスの提供に係る会計及び第16条から第21条までに規定する施設サービスの提供に係る会計は、それぞれ施設が行う他の事業会計と区分するものとする。
- 6 管理者は、入居者が負担すべき施設サービスの利用料及び費用を請求するにあたっては請求書を、当該請求に基づき入居者から支払を受けた時には領収書を、それぞれ入居者に交付するものとする。また、「指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準」(平成11年3月31日厚生省令第39号) 第9条第1項に規定する「法定受領サービス」に該当しない施設サービスに係る利用料の支払いを受けたときには、当該サービス提供に係る証明書を交付するものとする。
- 7 管理者は、前項に規定する食費及び居住費の額を変更するときは、あらかじめ、入居者又は身元引受人(家族等)に対し、変更後の額及びその根拠について説明を行い、同意を得なければならない。

(入居者に関する市町村への通知)

- 第25条 管理者は、入居者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知するものとする。
- (1) 正当な理由なしに施設サービス利用に関する指示に従わないことにより、要介護状態の程度を悪化させたと認められるとき。
 - (2) 偽りその他不正の行為によって保険給付を受け、又は受けようとしたとき。

(施設サービス提供に関する記録)

第26条 施設サービスの実施状況及び入居者の解決すべき課題の把握に資するため、施設サービスの提供においては次に掲げる記録を整備するものとする。

(1) 施設サービス提供に関する記録

① 施設サービス計画書

② 施設サービスの提供の状況及び入居者の施設での生活の経過に係る記録

(2) 第25条に規定する市町村への通知にかかわる記録

2 前項に掲げる記録については、その完結の日から2年間備えておくものとする。

第5章 施設利用にあたって入居者が留意すべき事項

(外出及び外泊)

第27条 入居者は、外出又は外泊しようとする時はその都度行き先、用件、施設へ帰着する予定日時等を管理者に届け出て許可を得なければならない。

2 前項の許可を受けた者が許可内容を変更するときは、事前にその旨を申し出なければならない。

(面会)

第28条 入居者に面会をしようとする者は、面会簿に所定事項を記載し管理者の確認を得て面会しなければならない。

(健康保持)

第29条 入居者は努めて健康に留意し、施設が実施する健康診断は特別な理由がない限りこれを拒否してはならない。

(身上変更の届出)

第30条 入居者は、身上に関する重要な変更が生じたときは速やかに管理者に届け出なければならない。

(禁止行為)

第31条 入居者は施設内で次の行為をしてはならない。

(1) 管理者が定めた場所と時間以外で喫煙又は飲酒すること。

(2) 指定された場所以外で人気を用い、又は自炊すること。

(3) けんか、口論、泥酔等で他人に迷惑をかけること。

(4) その他管理者が定めたこと。

(損害賠償)

第32条 入居者が、故意又は過失によって施設の設備等に損害を与えた時は、その損害を弁償させ又は原状に回復させることができる。

第6章非常災害対策

(非常災害対策)

第33条 施設は、消防設備その他の非常災害に際して必要な整備を設けるとともに非常災害に関する具体的計画を立て非常災害時の関係機関へ通報及び連累体制を整備し、それらを定期的に職員に周知しなければならない。

(1) 施設は、非常災害に備えるため、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行わなければならない。

(2) 施設は、非常災害に備えるため、非常用食料等の備蓄に努めなければならない。

2 入居者は前項の対策に可能な限り協力しなければならない。

第7章その他施設の運営に関する重要事項

(記録の整備)

第34条 施設は、職員・設備及び会計に関する諸記録を整備し、その完結の日から5年間保存するものとする。

(施設サービスの評価)

第35条 管理者は、自らの施設が提供するサービスの質について評価を行い、常にその改善を図るものとする。この場合において、評価については、第三者による評価を受けるよう努めなければならない。

(苦情等への対応)

第36条 管理者は、施設サービスに関する入居者からの苦情に迅速かつ適切に対応する為に苦情受付窓口を設置し、苦情を受け付けた時には速やかに事実関係を調査するとともに、対応の結果について入居者に報告するものとする。

2 管理者は、入居者からの苦情に関して市町村及び国民健康保険団体連合会が実施する調査等に協力するとともに、市町村から指導又は助言を受けた場合には必要な改善を行うものとする。

3 市町村からの求めがあった場合には前項の改善の内容を市町村に報告するものとする。

4 管理者は、苦情を申し立てた入居者に対していかなる差別的な取扱いも行ってはならな

い。

5 施設は、苦情を受け付けた場合は、当該苦情の内容等を記録しなければならない。

(身体拘束の制限)

第37条 従業者は、施設サービスの提供にあたっては、利用者の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行ってはならない。なお、緊急やむを得ず身体拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況、緊急やむを得なかった理由を記録しなければならない。

(秘密の保持)

第38条 従業者は、業務上知り得た入居者又は身元引受人(家族等)の秘密を第三者に漏らしてはならない。このことは、退職者についても同様であるものとする。退職者による秘密の保持に関する措置については、別に定める。2 管理者が居宅介護支援事業者に対して、入居者に関する情報を提供する際には、あらかじめ文書により入居者の同意を得るものとする。

(衛生管理)

第39条 施設は、入居者の使用する食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、医薬品及び医療機器の管理を適正に行うものとする。2 施設は、入居者の保健衛生の維持向上及び施設における感染症の発生又食中毒が発生し又はまん延の防止を図るため、次の各号に掲げる事項を実施するものとする。

- (1) 感染症または食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会を三ヶ月に一回程度定期的で開催するとともに、その結果について介護職員に周知徹底を図る。
- (2) 感染症又は、食中毒の予防及びまん延の防止のための指針を整備すること。
- (3) 介護職員その他の職員に対し、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための研修を定期的実施すること。
- (4) 厚生労働省の定める感染症及び食中毒の発生が疑われる際の対処等に関する手順に沿って対応を行うこと。

(事故発生の防止及び事故発生時の対応)

第40条 事故の発生又はその発生を防止するため次の各号に定める措置を講じなければならない。又、事故の状況及び事故に際して採った処置について記録し、その完結の日から2年間保存しなければならない。

- (1) 事故が発生した場合の対応・報告の方法等が記載された事故発生のための指針を整備する。

- (2) 事故が発生した場合、又はそれに至る危険性がある事態が生じた場合に当該事実が報告されその分析を通じた改善策について職員に周知徹底を図る体制を整備すること。
- (3) 事故発生の防止のための委員会及び職員に対する研修を定期的に行うこと。
- 2 管理者は、施設サービスの提供により事故が発生した場合には速やかに市町村及び身元引受人（家族等）に連絡するとともに、必要な措置を講じるものとする。
- 3 前項において、賠償すべき事故が発生した場合には速やかに損害賠償を行うものとする。

（地域との連携）

第41条 管理者は、その運営にあたっては地域住民又は、その自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流を図るものとする。2 入居者からの苦情に関して、市町村等が派遣する者が相談及び援助を行う事業そのための市町村が実施する事業に協力するよう努めなければならない。

（サービス提供困難時の対応）

第42条 入所予定者が入院治療を要する場合、その他入所予定者に対し、自ら適切な便宜を提供することが困難である場合は、適切な病院もしくは診療所又は老人保健施設を紹介する等適切な措置を講じなければならない。

（虐待防止に向けた体制等）

第43条 管理者は、虐待発生の防止に向け、本条各号に定める事項を実施するものとする。また、管理者は、これらの措置を適切に実施するための専任の担当者とする。

- (1) 施設では虐待防止検討委員会を設ける。その責任者は管理者とする。
- (2) 虐待防止検討委員会は、職員への研修の内容、虐待防止のための指針策定、虐待等の相談及び苦情解決体制の準備、虐待を把握した際の通報、虐待発生時の再発防止策の検討、成年後見制度の利用支援等を行う。
- (3) 職員は、年2回以上、虐待発生の防止に向けた研修を受講する。
- (4) 虐待又は虐待が疑われる事案が発生した場合には、責任者は速やかに市町村等関係者に報告を行い、事実確認のために協力する。また、当該事案の発生の原因と再発防止策について、速やかに虐待防止検討委員会にて協議し、その内容について、職員に周知するとともに、市町村等関係者に報告を行い、再発防止に努める。

第8章 雑 則

（改正）第44条 この規程の改正は理事会の議決により行う。

附則

この規程は平成 26 年 1 月 1 日から施行適用する。

この規程は平成 26 年 1 月 2 日から施行適用する。

この規程は平成 27 年 1 月 1 日から施行適用する。

この規程は平成 27 年 2 月 1 日から施行適用する。

この規程は平成 27 年 3 月 1 日から施行適用する。

この規程は平成 27 年 4 月 1 日から施行適用する。

この規程は平成 29 年 4 月 1 日から施行適用する。

この規程は令和 4 年 2 月 1 日から施行適用する。

この規程は令和 6 年 5 月 1 日から施行適用する。